

全苗連だより

Vol. 119

令和5年12月6日

発行：全国山林種苗協同組合連合会

Tel.03-3262-3071 Fax.03-3262-3074

令和5年度(第62回)農林水産祭式典において 北海道苗組の谷口淳一氏に天皇杯の表彰が行われました

令和5年度(第62回)農林水産祭式典が、新嘗祭の日の11月23日(祝(勤労感謝の日))、明治神宮会館において、天皇杯、農林水産大臣賞等三賞受賞者並びに農林水産大臣、各界代表者等を含めた多数の参加のもとに開催されました。表彰者につきましては、10月10日(火)に農林水産祭中央審査委員会(会長 伊



(写真) 第62回農林水産祭式典の様様

藤房雄氏)が開催され、令和5年度(第62回)農林水産祭の天皇杯受賞者、内閣総理大臣賞受賞



(写真) 表彰の様子(プレゼンターは宮下一郎農林水産大臣)



(写真) 表彰された谷口淳一夫妻 ①



(写真) 表彰された谷口淳一夫妻 ②

者、日本農林漁業振興会会長賞受賞者が決定されました。

なお、天皇杯、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞は、過去1年間(令和4年7月～令和5年6月)の農林水産祭参加表彰行事(全国山林苗畑品評会を含め農林水産業の266件)において、農林水産大臣賞を受賞した456点の中か

ら決定されたものです。各賞は、農産・蚕糸、園芸、畜産、林産、水産、多角化経営、むらづくりの 7 部門に授与されました。また、女性の活躍が著しい 2 点に対して、内閣総理大臣賞と日本農林漁業振興会会長賞が授与されました。谷口淳一氏の略歴等は全苗連だより10月号(vol.116)をご覧ください。



(写真) 表彰された谷口淳一夫妻 ③

令和5年度全国育樹祭式典において 熊本県苗組の 羽田誠次 氏に林野庁長官賞の表彰が行われました



第46回全国育樹祭ーいばらき2023ーが、11月 12 日(日)、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、アダストリアみとアリーナにおいて開催されました。式典において、令和5年度全国育樹活動コンクールの表彰が行われ、熊本県樹苗協同組合の羽田誠次氏が林野庁長官賞(個人の部)を受賞されました。

なお、式典には全国の林業関係者や緑化活動に携わる企業・団体、公募参加者など、茨城県内

外から 2,000 人の方が来場しました。式典の中で、殿下は「かけがえのない豊かな森林を維持し、健全な姿で後世へと引き継いでいくことは、私たちに課せられた大切な務め。未来に繋がる新しい林業の姿が、ここ茨城の地から全国へと発信されることを祈念します」と述べられました。

以下に、羽田氏のプロフィールをご紹介します。

【氏 名】羽田 誠次

【苗木生産の活動開始時期】昭和 52 年 4 月

【年齢】64 才

【所在地】阿蘇郡南阿蘇村

【活動内容】

氏は昭和 52 年に熊本県立熊本農業高等学校を卒業すると同時に、祖父の代からの家業である苗木生産を継承し現在まで羽田樹苗園の代表を務めている。

山林苗木生産規模は年間約 30 万本と県内生産量の約 1 割のシェアを占め、県内でも有数の苗木生産者である。近年の造林樹種の多様化に応じ、スギ、ヒノキなどの針葉樹苗木のみならず、クヌギ、サクラ、モミジ、ケヤキなどの広葉樹苗木の生

産も行っている。さらに、再造林推進

対策としてコンテナ苗の導入に県内でもいち早く取り組み、培土の開発や育苗管理方法について独自に技術研鑽を重ね、生産する苗木全体の8割をコンテナ苗が占めるまでに至っており、本県のコンテナ苗の普及に大きく貢献している。氏はコンテナ苗の特質を「植栽期間が長くて、活着が良

く、初期の生育が早い」と考えており、この特質を最大限に引き出す苗木の生産を志している。

氏が住む南阿蘇村を含む「南郷谷」と呼ばれる一帯では、古くから日本で唯一といわれるヒノキの挿し木品種「ナンゴウヒ」の造林が行われており、氏自身もナンゴウヒの生産に取り組んでいる。氏の祖父から3代にわたり生産技術が引き継がれる中、以前は直差し造林が主流であったが、現在はコンテナ苗による生産を行っている。また、氏が所有する 100 年を超えるナンゴウヒ林は、根元まで通直完満というナンゴウヒの最大の特徴が表れており、見本林として活用されている。

このような中、本県内においても主伐面積が増加傾向にあり、主伐後の確実な再造林を推進するためには苗木の安定的な供給体制の構築が重要な課題となっている。この苗木の需要拡大に対応するため、氏は一

早く特定増殖事業者の登録を受け、特定母樹やエリートツリー等の配布を受け、現在 2,000 本以上の母樹による採穂園によって安定した量の苗木生産を可能にし、さらに独自の技術研鑽によって挿し木の発根率については、秋植えて6割から7割、春植えて9割以上という高い



水準を維持している。

氏は、祖父、父親から引き継いだ経験コンテナ苗生産など新しい技術について駆動的な苗畑経営の模範となっている。さが求められているのか常に需要バランスた苗木を生産しており、本県の再造林推進している。



に裏打ちされた苗畑技術に加え、も積極的に取り入れる姿勢は、先らに造林の現場でどのような苗木の情報収集に努め、ニーズに応じ進の施策を支える重要な役割を

全苗連・苗組の行事予定

- | | |
|----------|---|
| 12月7日 | 令和5年度第4回全苗連正副会長会議(全苗連事務室) |
| 12月11日 | 林業種苗生産者講習会テキストの更新委託事業第2回検討委員会(日林協会館) |
| 令和6年 | |
| 1月4日 | 令和6年林業関係団体賀詞交換会(航空会館)(日本林業協会) |
| 1月18～19日 | 北海道・東北地区林業用種苗需給連絡協議会(宮城県) |
| 2月2日 | 関東地区林業用種苗需給連絡協議会(千葉県) |
| 2月7日 | 第2回中央情報連絡協議会(web)(日本木材総合情報センター) |
| 2月8日 | 令和5年度新たなコンテナ苗生産技術等調査委託事業第2回検討委員会(日林協会館) |